

白楽天の江州司馬に左降せらるるを聞く

元

稹

残灯焰無くして影憧憧  
此の夕聞く君が九江に謫せらるるまで

垂死の病中驚いて起坐すれば  
暗風雨を吹いて寒窓に入る

【作者】元稹(七七九〜八三二年)中国、中唐の詩人。字は微之。河南(河南省洛陽)の人。十五歳で明経科に拔擢(ぼつてき)された秀才で、八〇六

年、皇帝による特別試験に首席及第。初め宦官(かんがん)に反抗したが、のちには追従し、後世非難を受けた。官界での地位は宰相に至ったが、政争に絡んで罷免され、地方官を歴任したのち、武昌(湖北省武漢市)節度使として卒した。白居易と親交を結び、元白と併称され、二人の間で贈答唱和した多くの詩が残る。

【語釈】\*残燈…油が泣くなり、消えかかった灯火。 \*幢幢…揺れて落ち着かないさま。 \*九江…現・江西省九江市を含む広い一帯

\*謫(たく)…官位を下げて遠くへ追放になる。 \*垂死…死にかけ。瀕死。死になんなんとす。 \*暗風…暗闇から吹いてくる風。

\*寒窗…寒々としてわびしげな窓。冬の窓。

【通釈】消えかかった灯火は、ほのおも殆ど無くなり、火影(ほかけ)はくすんで明らかでなく、揺れて落ち着かないさまであり。この夜、あなたが九江郡の司馬に左遷されたというのを耳にした。死にかけの病で病臥中なのだが、驚いて、起きあがって坐り直した。暗闇から吹いてくる風が、寒々としてわびしげな窓から雨を吹き込ませてきた。

【備考】作者が、白居易が江州司馬に左遷されたことを耳にして作った詩。